

## 会長の時間 ●片岡会長

### －常識について－

ハラスメントという言葉が飛び交う今、すっかり聞かなくなった『常識』の二文字。先月、免疫学の権威である順天堂大学・医学部・免疫学特任教授・奥村康さんの『医学界での常識』についてお話を聞く機会をいただきました。免疫学の立場から、豊富なデータをもとに次のような事実を教えていただきました。

- ・コレステロールは脳の栄養素であり、値の高い人は頭の回転が良い。
- ・コレステロール値を下げる薬を服用するとガンの確率が上がり、またうつ病になりやすい。
- ・コレステロール値は 300 mg/dl 以下であれば正常。
- ・血圧降下剤を服用すると早死にする。血圧の上の値が 200 以下なら血圧降下剤は服用しなくてよい。
- ・タバコの喫煙者は風邪をひきにくく、自殺をしない。
- ・喫煙と肺がんとは無関係。
- ・タバコの煙よりも、線香やお香の煙にダイオキシンが多く含まれる。
- ・アドレナリンが出やすい人（いわゆる血の氣の多い人）は花粉症にならない。（アドレナリンはヒスタミンの動きを止める物質）・・・凶悪犯を収監する刑務所では、刑務官は花粉症になる方が多く、服役者は花粉症になる方はほぼいないとのことです。
- ・アトピー性皮膚炎は、皮脂を体表面から取り除きすぎた結果である。
- ・うまくいかなかったときに「自身の責任と思う人は早死にし、他人のせいにする人は長寿」である。

科学の進歩により、これまで『常識』だと信じて疑わなかった、タバコ・コレステロール値・血圧にまつわるお話と、今回のお話の内容の違いに、『常識』とは何たるかを考えさせられました。

英語では「common 共有」、「sense 感覚」の2つの単語で表現される『常識』。

英語の表現の方が腹に落ちますがいかかでしょう。

**卓　　話** ●三渡圭介会員  
「ロータリー雑感」



私が龍野ロータリークラブに入会させていただきましたのは平成5年2月に昨年度退会しました私の同級生でもあり親友の松本道彦元会員と一緒に45歳でした。

当時には明治生まれの浅井両巨頭と私の親と同じぐらいの戦争体験者で大正生まれの方々を合わせて17名、昭和一桁生まれの旧

制中学校・商業学校を卒業されたであろう方々が23名もおられ、昭和10年から昭和19年の戦中お生まれが15名、私を含めて戦後生まれは10名で圧迫感を覚えたものです。例会場は現在の三井住友銀行の3階で行われておりました。その翌年度に創立35周年が開催され、私と松本君は記念講演の講師で神戸王子動物園協会学芸員「亀井一成」氏の講演テープ起こしを担当し悪戦苦闘をしました。

当時、下手なゴルフもしております、西播ロータリーのゴルフコンペが龍野ロータリー主幹で千草カントリーにおいて大会がありました。新入会員として二人とも出席をしましたところ、私が優勝をし、松本君が二位に入りました。風呂場の洗面所において大正お生まれの先輩から君らハンデーはいくつで申告をしたのかと聞かれ、当時は自主申告制で千草カントリーのオフィシャルハンデーを持っていましたから30と云いますと「それは甘すぎるロータリーでは他のクラブとの親睦大会にはもっと謙虚に二割ほど引いて申告をするものや、恥を知れ」と叱責をされました。その一言に私達二人はびっくりして「えらいところに入ってしまったな」と震え上がったものでした。

ロータリークラブは大正時代に日本に導入をされました時にアメリカの「サービス」を約する時に「奉仕」と訳されました。本来は「忠恕」と訳すべきであったと文献にありましたが、「忠恕」自体の意味が解りません。辞書を引きますと「真心と思いやりがあること。忠実で同情心が厚い事」とあります。日本流で云いますと「武士の情け」と云いかえれば少し解り易いかもしません。要するにロータリーランは武士道精神に近い「利他の心」を持って、来訪者や弱者・敗者への共感の心を持つことであるとその先輩は言われたのでしょう。私達二人は理解が出来ずに冷や水を掛けられた思いを感じました。

その年度の忘年会か新年会であったと思われますが梅玉であったと記憶しておりますが、お酒を注いで回っている最中に、今は亡き山口保会員に「君は堀直治・三男の甥に当たるな」と云われびっくりしました。それは顔も見た事もない戦死をされた私の母方の二人の叔父で名前だけは知っていました。「私は龍野商業で三男君と同級生で兄の直治さんの後輩にあたり、二人の事はよく覚えていると云われ、母に言います

と戦死した二人の兄の事を覚えておられる方がおられ、大変嬉しいと涙を流しておりました。ロータリークラブの親睦の原点を見たように感じました。

またもう一人忘れられないのが中山陽一先輩会員です。平成 8 年より先輩が龍野ロータリークラブの会長をされた時に私が幹事を拝命して、米山奨学生孫宝磊を 2 年間カウンセラーとしてお世話をしました。私がロータリーに入る以前に先生と知り合ったのは、昭和 50 年頃の話ですが、二年続けて正月に子供が小児ぜんそくで夜中の 2 時か 3 時に発作が出て苦しんでおり、どこに電話しても出ていただけない中で、係り付けでもない中山先生は二年とも連れて来てくれと云われ診ていただいた事があります。後で聞きますと先生は家に居られたら何時でも誰でも苦しんでおられる方は連れて来いと云われると聞きました。職業奉仕の原点は「忠恕」すなわち利他の心で真心と思いやりがある心を仕事に生かしているという事であると位置づけられ、お医者さんでこれも尊いですが僻地や地域医療に励んでおられる事は社会奉仕であると教えていただきました。

鮮明に印象に残っておられるのは明治 42 年お生まれの浅井弥七郎先輩で同じテーブルに付きましても、寡黙で余計な事は仰られませんが、卓話のスピーカーが良い話をされますと誰かれ無しにお礼を言いに行かれる姿が強く印象に残っております。私も二、三度はお礼を言われた事がありますが、云われなかつた時には落胆をしたものです。先輩は常日頃言われる事は「ロータリークラブは例会出席である」と断言されました。「例会に入りて学んで出て奉仕せよ」が口癖であったように思います。私が平成 21 年 7 月から 22 年 6 月まで会長をしました時にちょうど 100 歳を迎えて、チャーターメンバーであられ、例会連続出席 50 年に達する時でありました。「ロータリーの友」に「100 歳を迎えて、例会無欠席 50 年」というタイトルで掲載をしてもよろしいですかと尋ねますと、私はロータリーの友に掲載される為に例会無欠席 50 年を続けた訳ではないので掲載はしないでほしいと云われ頭が下がる思いで了承をしました。

又、前年であったように記憶しておりますが 100 歳のご本人がご自分で卓話をされ徳島県脇町にて、旧制中学二年生で迎えられた大正 12 年 9 月 1 日の「関東大震災」が有った日の事を語られたのがいまだに印象に残っております。

ロータリーは自己研鑽はじめ、それぞれの方々がご自分の職業で生かされたものを職業奉仕と云われ、社会に広めて行くことが社会奉仕と理解しておりますが例会に出席をして学んでこそその価値がありますが、浅井先輩の言われた「ロータリーは例会出席が全てで、入りて学び、出でて奉仕せよ」をもう一度認識をし直さなければならぬ状態にあると考えます。

ロータリーには様々なルールがありますが、その中に出席に関するルールがあります。理事会の承認も得ず、出席免除でもなく連続欠席をされる方もおられるようです。出席は義務ではなく、出席できる権利であります。週に一度、会費を納め、1 時間ほど

勉強をする権利がある訳であります。皆さん仕事を持つておられますから忙しくて例会に参加できない事もあります。その為に当該例会の前後 14 日づつ以内に他所のクラブに出席をするとか、クラブの他の事業に出席をしてメイキャップをして補います。又、年齢と在籍年数を足して 85 年になれば出席免除になりますが例会連続出席とは別の物であります。

特に出席に関してペナルティーもあります。バッチを付ける事を忘れる。遅刻、早退ペナルティー。報告なしの欠席など 1000 円のペナルティーが付いていました。現在にもそれは生きていますが、滞っておられる方もおられると見ております。又、例会の遅刻早退は例会時間の内 60%以上在籍をしなくてはなりません。ですから例会時間が 60 分ですから 36 分以上席にいなければ出席と認められない事になります。もう一度原点に帰らなければならないと考えます。「易きに流れたものは元に戻すのには倍以上の努力がいる」と云われます。ルールを守って運営する事によってクラブの維持と繁栄が継続されると考えております。

#### 創立 50 周年記念誌の中の「ロータリーと共に 50 年」

高田俊夫先輩と浅井弥七郎先輩の対談にて浅井弥七郎先輩の締めの言葉を掲載します。  
「ロータリークラブは、職業的にも年齢的にも広い範囲の友達を得ることが出来ます。それも堅からず柔らかすぎず、自分の人生を豊かにできるような立派な人達と交際して行けるクラブだと思います。この良い伝統や精神を受け継いでゆくために、またこれからも活力を維持していくために若いメンバーの入会を心より望みます。」

「志は高く生活は質素に」 ウィリアム・ワーズワース  
浅井弥七郎先輩のお好きなお言葉